

Sea Breeze 82 湘南学園は、創立82年です

同窓会新体制スタート・寛会長挨拶
【特集】レジェンドたちの熱血トーク
「東京オリンピックへ向けて」河野一郎

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会で検索 <http://shogak-doso.org/>

海外への夢はモナコの三ツ星レストランで結実 小島 景 (高1982年卒)

自分のベースは鎌倉

フランス文化を伝えられる人材育成が今の目標です

私が料理の世界に入ったのは、フランスで修行し日本で活躍している料理人の記事を読んだことがきっかけです。小さい頃から、漠然と海外で暮らしたいと思っていたのですが、受験期に予備校へ通いながらも、大学生活やその後の人生に、全くビジョンが見えなかったのに対し、料理＝海外というイメージがどんどん大きくなって。

結局、進学をやめて、最初はイタリアンの厨房に入り、24歳の時に渡仏しました。

フランスではトータル15年のうち、フランク・セルッティに師事し、10年働きました。一旦帰国し、レストランを任されましたが、自分の不足を痛感して再渡仏。それからの「ル・ルイ・キャーンズ アラン・デュカス」



(モナコ)での5年は私の修業時代の天国と地獄でした。

50席ほどのレストランに、選び抜かれた若い料理人が25人。仕事ができなくてプライドがあって、日々、男の熾烈な凄惨な競争でした。秒単位で料理を出す、ミリ単位で切り揃える、怖いぐらい厳格で。最初はそのペースや流儀についていけず苦しみました。ばかにされ、もうだめかと思ったこともありました。必死で格闘して…辛かったですね。ただ、慣れてからの毎日は、それはもう充実して楽しくて、何人もの人を使ってひとつの物を作り上げるスタイル、組織ならではの幅広い仕事の面白さなど、本当に多くを学びました。最後は2番手になり、このまま一生フランスで、とも思いましたが、妻の希望もあり06年帰国を決意しました。

やはり帰国して住まいに選んだのは鎌倉でした。鎌倉や鶴沼が好きになったのは楽しかった学園時代ですし、確実に私の人生のベースになっています。社会に出てから知り合った学園関係者も多いですが、波乗りをしていて、海の中で先輩に会ったり、スーパーで同級生に声をかけられたり、地元っていいですね。そんな時は、あらためて学園でよかったなあと思います。今では毎朝、鎌倉の市場で直接野菜を仕入れ、10キロぐらいを抱えて銀座の店まで通勤していますが、オンとオフがうまくリンクし、とても充実しています。

かつては自分の店を持つことも、ひとつの目標でしたが、最近は人材育成ですね。自分が料理を通じてフランス文化を伝え、教えた若い料理人が巣立って活躍してくれるのは満足感があり、自分の仕事としてもひとつ完結するのかな、と思うようになりました。

まだまだ時間はかかりますが、楽しみです。

小島 景 (こじま けい)

1982年 湘南学園高校卒業
1988年 渡仏。フランク・セルッティに師事。97年帰国
2001年 再渡仏。「ル・ルイ・キャーンズ アラン・デュカス」(モナコ)へ
2003年 「ル・ルイ・キャーンズ アラン・デュカス」(モナコ) 副料理長
2006年 帰国。「ADF Tsuji」教授
2008年 青山「ブノワ」総料理長
2010年 「ページュ・アラン・デュカス 東京」総料理長

編集：依田和美 (高1979年卒)



会長 挨拶と抱負

同窓会会長 筧 元則

中1959年卒

昨年7月に渡邊和彦氏の後を受け、同窓会の会長を引き受けました。同窓会の発展、さらには湘南学園の発展に、皆さま方のご支援をいただきながら努力していく所存でございます。

今後は、あくまでも母校のための同窓会であり、同窓生のための同窓会であることを基本として進めていくつもりでございます。

私が湘南学園で最も印象に残っていることは、3代目宮下正美園長（昭和22年～33年在任。長野県下伊那高森町のご出身で、昨年11月には郷土出身の文学者としての業績をしのぶ取り組みが行われました）の「よいこのおしえ」です。

「父母を敬え、ひとには親切、『はい』と『いいえ』をはっきりと、明るくすなおに大きくなれ」

幼少の頃、この道徳的な意味合いと、恵まれた湘南の地でのびのびと個性豊かに育ったこと、そこに湘南学園があったからこそ今日の私の成長があり、湘南学園に何か恩返しをしようと思立ったことが会長職を引き受けた理由です。

湘南学園の建学の精神といわれるものに「個性豊かにして身体健全、気品高く社会の進歩に貢献できる、明朗で実力のある人間を育成する」とありますが、この建学の精神こそが他校と違う魅力であると思います。

生徒の皆さんに昔と変わらない気風を感じるの、今でもこの個性尊重の精神が根底に流れているからだと思っております。

時代の変化 人材育成の一助となるために

ISAK(長野・軽井沢)インターナショナルスクールが今大変話題になっています。社会を変革するリーダーの育成に取り組む教育分野に、押し寄せる国際化の波を感じます。今やグローバル化が進み、複雑化する社会、変化する時代の流れに対応し柔軟な思考と行動がとれる人材の育成が求められています。日本一国では成長できない、世界とともに歩まなければならない時代が来ています。湘南学園のグローバル教育(国際教育)の振興を

図っていくに当たり、在校生の皆さんに同窓生の豊富な経験談を語り継いでいくことで、同窓会として全面的に応援していきたいと思っております。

おかげさまで80周年も成功裡に終わり、またひとつ箔が付き、90周年、100周年その先を見据えて、チーム湘南学園(学園、教職員、PTA、後援会、同窓会)で結束を固め、同窓会の底力を発揮して、山積する課題に取り組んでいこうと思っております。

同窓会はチーム湘南学園とともに、「松ぼっくりフォーラム」を開催してきました。これからも先輩たちが在校生である後輩に、さまざまなテーマで知識や経験を語る機会を提供していきたいと思っておりますし、また学園の抱える大きな課題、具体的には少子化問題、私学の厳しい状況にも、同窓会としてできる限り協力していきたいと思っております。

創立80周年の記念事業として、カフェテリア、資料室、同窓会室からなる記念館が建ちました。長年の念願がかない同窓会室が出来上がり、今後の同窓会の発展がますます期待できると思われれます。

「成人を祝う集い」で若い世代との交流も

今年の集いは新装になったカフェテリアで、1月12日の「成人の日」に開催されました。2年前に湘南学園の高校を卒業した、全体で百数十名の卒業生の方々が、懐かしい再会を果たされました。

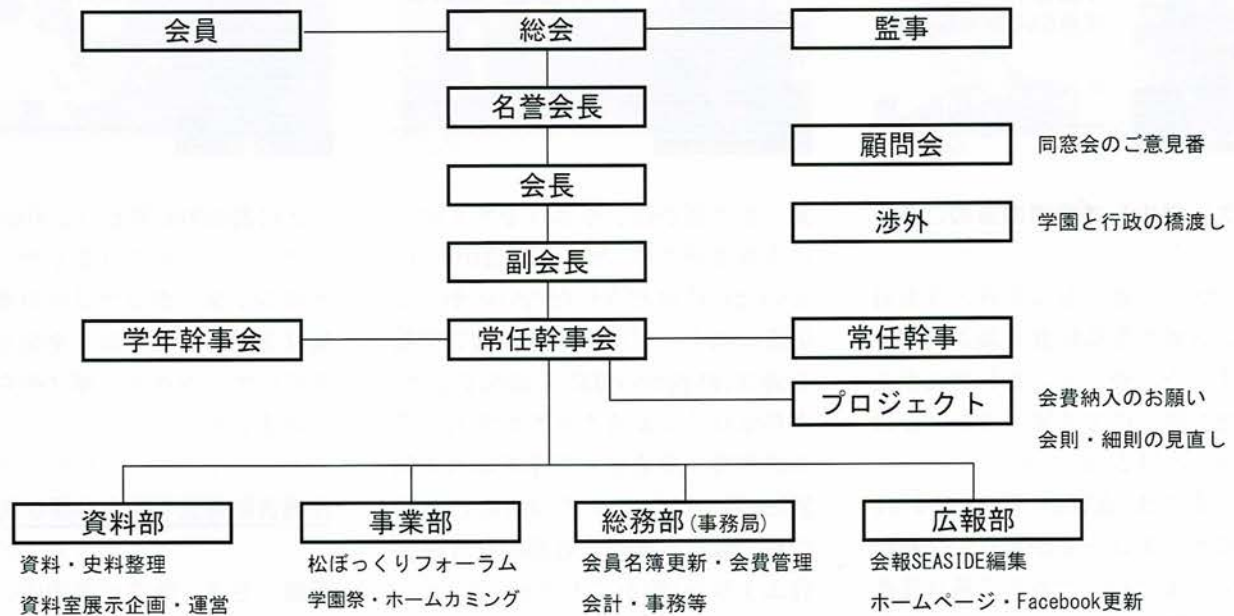
今後の湘南学園が更なる発展をしていくために、新設された記念館のカフェテリア、資料室、同窓会室を再会の場として、またホームカミングデーの開催、学園行事の機会を活用し、若い世代の方々のご協力を得ながらコミュニケーションを深め、同窓会として色々とお力添えをしていくことが大変重要なことであると思っております。今回のこの「成人を祝う集い」で、また新しい若い同窓生との接点が増したことは、喜ばしいことであり、将来につながる大変に良い機会であったと思われれます。



撮影：鈴木哲夫(高1966年卒)

湘南学園同窓会について 役員組織図と活動内容のご紹介

湘南学園同窓会組織図



資料部

桑島 宏忠

高1959年卒

資料室は湘南学園80周年記念事業の一環として平成25年カフェテリアの一角に誕生しました。80年の学園に系統だった資料は無く、今後伝統を醸成するためにも資料の整理は急務でした。「資料室」と称しているのは、かび臭い学園史に留まらず、生き生きとした学園生活、卒業後の学園関係者の模様も紹介したいと考えたからです。現在集まっている資料は、内藤喜嗣氏（2回生）が長年かけて収集した学園史および拡大して見やすい学園通信全巻。現在のスタッフは、文集「松ぼっくり」と各学年の幼稚園時代から高校までの学園生活のパソコン入力、卒業生名簿等の整理を始めています。

今後は、学園の中に散在している資料の調査、学園行事発行書類などを整理したいと考えています。皆さまにもお手持ちの貴重な資料など寄贈していただけたら幸いです。



渉外

齋藤 健夫

小1981年卒

渉外は3人の議員で構成されています。神奈川県議会議員の赤井和憲さん(高14回生)、同じく私、そして前藤沢市議会議員の山口幸雄さん(高14回生)です。具体的な使命は、地域と学園との関係を円滑に進める取り組み、また学園が関わる地域や私学固有の課題に対して藤沢市や神奈川県との調整を図ることなどです。

私学は大きな岐路に立ち、財政難などを背景に県からの私学助成縮減等が取り沙汰され、成果主義的なことが大きなポイントとなる可能性を秘めています。学園が今後目指すべき方向性をきちんと受止めた上で行政との橋渡しが必要です。3.11震災時に地域の避難所として多大に貢献したことは行政からも高評価を得ており、その評価を一層高めるためにも地域との連携は益々必要となります。引き続き3人で協力し、学園のために力を尽くしていきたいと思ひます。



会則・会費納入
プロジェクト

山田 為夫

中1959年卒

会則、会費納入プロジェクトを担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願い致します。例えば学園には昭和20年代から30年代中頃にかけて幼稚園から中学校までお世話になりました。今こうして再び学園と接することができるようになり、大変嬉しい気持ちでおります。

さて、会則の見直しと同窓会費についてのプロジェクトですが、特に会費につきましては会の維持運営上の最重要課題のひとつであり、この増強は会の活発な活動のため、必要不可欠なことと認識しております。但しこのテーマに妙手はなく、地道で永続的な取り組みが必要です。さらに、この問題には会員の皆さまのご理解とご協力をいただかなければなりません。私共も皆さまのご理解をいただくべく極力努力して参る所存でございますので、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

【特集】 レジェンドたちの熱血トーク



日本テニス協会
専務理事
荏原SSC取締役社長

内山 勝

小1956年卒



ジュニア・オレンジボ
ウル国際選手権出場

井上 政憲

小1956年卒



鎌倉宮カントリー
テニスクラブ会長

寛 元則

中1959年卒

テニスに熱中した青春のあゝころ

門脇 テニスとともに歩み、今も日本テニス界の要職に就く顔ぶれがそろいました。皆さん、それぞれが長い歴史を持つ中でまず、テニスを始めたきっかけから……。

内山 ボクは、実家が戸塚にあって、そこにテニスコートがあり、父親がやっていました。こちらに移り住んで山本公園のテニスコート（筆者注＝藤沢市片瀬海岸）でやるようになり、小学校1、2年のころでしたか、ボクも壁打ちからスタートしました。

井上 私は小学校4年のとき、内山くんのお父さんがやっていた山本公園で始めました。幼年時ちょっと病気がちだったので、それもあってね。

門脇 当時の環境はどうでしたか？

井上 そうですね。あの山岸さん（筆者注＝故・二郎氏。1930年代後半に活躍した世界的プレーヤー）が、山本公園のコートで子供たちに教えるというのが大きなきっかけになりました。

寛 私が始めたのは小学校3、4年くらいからでした。いとこがやっていて、そのコートに行くのが楽しかったことを覚えています。

門脇 それぞれが遊びの延長で楽しく始めたテニスのように。では、ハマったというか、本格的に取り組むようになったのは、どんなきっかけがあったのでしょうか。

内山 本格化したのは高校（県立鎌倉高校）に進んでテニス部に入ってからでしたが、学園時代に後輩にうまいのがいて、年下だったけど憧れたりしていましたね。

寛 私の場合は、テニスを学生時代に大成させたい、という野望があり、そのためにはどうしたらいいか、という計画を立て、テニスが強い学校を選び、高校から慶応に進みました。本格化はそこからだったですね。それとデ杯（筆者注＝男子テニスの国際別対抗戦「デビスカップ(Davis Cup)」）の魅力は大きかったと思います。

井上 ウン。確かに大きかったね。当時、デ杯の東洋ゾーンの試合などを田園コロシウム（筆者注＝東京・大田区田園調布、1989年に閉鎖）でやっていて、よく観戦に行ったものです。そうして影響を受け、自分もやがて、学校の部活で選手になり、試合で成績が残せるようになってから本格的にハマっていききましたね。

門脇 記憶に残る出来事はありますか？

井上 高校3年時にインターハイで単・複・団体に勝ち、3冠を達成させたんです。そのご褒美で2年間、米国に留学させていただきました。「オレンジボウル」世界大会などの試合にも出場しましたが、そこで驚かされたのが、世界のジュニアたちの英才教育でした。錦織君が進んだような環境が、当時からもう、そこに出来上がっていましたよ。

内山 ボクは、ちょっと体を壊したこともあり、選手よりコーチに興味を持つようになりました。で、コーチをやるなら米国でと思い、1972年に渡米して勉強させていただきました。

門脇 どこへ向かったのですか？

内山 フロリダに行き、ハリー・ホップマン（筆者注＝デ杯オーストラ

リア代表の名監督として手腕を発揮）のキャンプに加わりました。名コーチのニック・ボロテリー（筆者注＝後にIMGアカデミーを設立）もそこにいて、ボクも一緒にやらせてもらいました。

指導者にも選手にも必要な真剣勝負

門脇 さて、昨今の世の中、フェアプレー精神などのスポーツマンシップが薄らいでいます。イジメなどアンフェアが横行していますが、皆さんの経験から、テニスを含むスポーツを通じた青少年の育成について、どうお考えでしょうか。

井上 私たちの時代はまだ、軍隊経験者が先輩にいたりなど、古い体質が残っていてイヤな面もありましたね。とはいえ、テニスに関して言うなら、ほとんどが「クラブ育ち」で当時、学校の部活にはなかった“自由”な雰囲気がありました。

門脇 部活の厳しい上下関係の中では得られない自由ですね。

井上 これは大事なことです。テニスが好きで自分の考えで自由に進んでいく。夢中になって、強い選手にあこがれ、自分もそうなりたいと目標を持って邁進する。そうすることによって、人格が形成されていく、ということではないでしょうか。

寛 テレビでやっていた指揮者の広上さん（筆者注＝淳一氏。学園の芸術コース出身の世界的指揮者）と井村さん（筆者注＝雅代氏。シンクロナイズドスイミング日本代表に復帰した名コーチ）の対談を観たのです

学園から“第2の錦織”を出そう！



司成 構成
門脇輝彦 小1956年卒 佐藤彰雄 中1960年卒

が、2人の人を引きつける強烈な力に凄さを感じました。

門脇 指導者としての力量ですか？

寛 そうです。技術だけでなく精神的なもののレベルが高い。さまざまな選択肢があって、若い人たちのスポーツ離れが言われますが、この2人を見ていてつくづく、指導力の大切さを感じました。

門脇 体罰問題などが表面化して指導者も難しい立場に追い込まれています。押しつけてやらせられるのを嫌い自由行動の人が多くなっている。

井上 そう。古い体質的なものをイヤがり、個の中で磨きたい、という人たちが多い。

寛 確かに多くなっていますね。が、一方、指導者の指導力によって触発される可能性もまた、あるのではないかと、とあの対談を聞いて私は思いました。

内山 ボクはまだ、現場で指導に携わっているんですが、一番の問題は、スポーツを通して本人が“何を学ぶか”ということですね。理不尽かもしれないが、学校の部活で上下関係とか礼儀や挨拶をキチンとするとかは、日本の体育会の良さであり、ずっと生きています。が、最近はずぐに批判を受けるので教育者が怖がってやらなくなっています。

門脇 戻込みしてしまっている。

内山 一方で親の問題もあります。親は子を錦織君のようにするのが夢だから、あらゆるいい条件を子供に与えようとする。テニスは個人スポーツだから子供が自立しなければダメ、親の過保護はダメ、と言い続け

ていますが、親がのめり込んでしまい、何でもいいから勝たせようとしていたりする。そういう世の中になって、すべてが中途半端だから、いい選手が出てこない。寛さんが言われたように、指導者がどれだけしっかりするか、は本当に大事なことです。

学園にスポーツ専門コースがあってもいい

門脇 先ほど井上さんから、米国でのジュニア選手を取り巻く環境の良さが指摘され、国内では学校の部活よりクラブで得られる自由が大切、との意見が出されました。では学園が、私学ならではのそうした育成に着手できないものでしょうか。

寛 すごく興味があることですね。指揮者の広上さんら、かつてあった芸術コースでは、すぐれた人材を生んでいます。であればスポーツ専門コースがあってもいい。私は学園にはうってつけではないかと思えます。

内山 確かにここは小・中・高と一貫教育なんですから、やろうと思えば可能性はありますね。

門脇 スポーツで名を売ることも私学の役目でしょう。

内山 かつて山梨学院大が箱根駅伝で名前を全国区にしたことなどいい例ですね。昨年暮れ、学園のテニス部の指導者とお話した時、目標を「県のベスト16」にしているとのことでした。それはちょっと頑張ればできます。それ以上を目指すなら体制づくりが必要ですね。一番の問題は指導者がいるかどうかでしょう。

井上 高校生に何に勝ちたいか？を聞くと皆がインターハイなんですね。それを目指すことが悪いわけではないが、やはり世界に目を向けてもらいたいですよね。

門脇 まあ、はじめの一步、と考えればベスト16もいいと思う。が、それ以上を目指すとなると、指導者とお金の2つが必要となる。学校がどれだけ本気になれるかどうかですね。

井上 学園がスポーツに取り組む方針をしっかりと打ち出し、それに対してOBたちを含む関係者がどれだけ対応できるかという体制をつくる必要があります。

寛 私学の財政は確かに厳しいとは思いますが、OBには著名な方々も多くいて、学園はなぜ、そういう方々と取り組まないのか、と思います。ある意味、それが学園の校風でしょう。

門脇 そうですね。少なくともここには、テニスのスペシャリスト3人の名コーチが集まっているのに…。

内山 今、選手育成のほとんどが、学校で力を入れているところもありますが、クラブや海外なんですね。男子は海外に行って外国人の球を打たないことには話にならないこともありますが、日本の環境が整っていない。私が米国に行ったのは、学んだことを持ち帰って選手を育成したいという夢があったからなんですけどね。

門脇 今日はいい話が多く出ました。学園関係者も参考にさせていただきたいですね。皆さん、ありがとうございました。 撮影：立川元彦（高1960年卒）



A SUSHI EXPERIENCE 経営
アメリカ在住の寿司シェフ

Ray Yamamoto (山本 芳夫)

高1980年卒

湘南学園中学、高校と6年間通ったすぐ後(1980年)アメリカに渡り、カリフォルニア州サクラメント市というところで暮らしはじめました。

いろいろ仕事をした後、1984年から地元の日本食レストランでスシシェフとして働きはじめました。

12年の修行の後、1996年から2006年迄、計3軒のレストランをオーナーシェフとして経営しました。その間1987年に結婚(妻は横浜出身の同い年)、1992年に息子が生まれました。2006年



末にレストランを売却し、スシケータリングのビジネスを立ち上げ、現在まで続けています。

主にホームパーティーなどに出向き、そこでスシを握ったり、スシクラスを催したりしています。スシクラスとは、スシの作り方を習いたいという人たちをだいたい10人~20人ほど集め、米の研ぎ方から、炊き方、すし酢の混ぜ方、魚の選び方、切り方、ロールの巻き方など一通り教えて、最後にみんなで作ったスシを食べながら日本酒やワインを飲み、スシパーティー感覚でワイワイ楽しくやっています。

学園での思い出は、本当にたくさんありますが、やはり、高校時代にしてた部活(バスケ部)のことを一番多く思い出します。

でも最近は年齢を重ねてきたのか、色々な出来事もそうですが、学園で出会った人たちのこと、部活仲間のことが一番懐かしく思い出されます。楽しい時もつらい時も皆と一緒に頑張っていた頃がとても懐かしいです。



辻堂デンタルクリニック

2003年に開業

小林 利也

小1980年卒

湘南学園小学校を卒業してもう25年ほど経過しますが、思い出に残る多くの先生方にご指導いただき、今でも親しくしている大切な友達に巡り会えたことに感謝しています。当時は何も分からないままに『どうして電車に乗ってこんなに遠い小学校に通っているのだろうか?』と思うこともありましたが、しかし今になって改めて思うこと、それはこのような小学校生活を送ることができるよう湘南学園へ入学させてくれた両親への“感謝の気持ち”です。

私事ですが小学校5年の頃、自宅近所に住む“カッコいいお兄ちゃん”の着ていた中学の制服に憧れ、同じ制服を着て同じ学校へ行くことを夢見て中学受験をするもあえなく失敗に終わりました(笑)。担任だった樋口正敏先生は『中学へ行っても湘南学園の代表だと思って利也君らしく頑張りなさい』と当時の住まいまでお越しくだ

さり励ましていただきました(涙)。現在は藤沢市内で歯科医院を営んでおりますが、先生のその一言“自分らしく”が今の私の心の奥底にある羅針盤になっています。

私たち昭和54年度小学校・昭和57年度中学校卒業同窓生は、平成25年7月に地元藤沢で、樋口正敏、西原裕子(現・水原)、中村登喜子、権守弘明、山崎健二、加藤裕宥、木村正二郎(敬称略)の先生方をお招きし、合同同窓会を開催いたしました。開会冒頭には物故者に出席者全員で黙祷を捧げ、当時のエピソードや昔話にも花が咲き、おかげさまでとても楽しい時間を過ごすことができました。参加できなかった仲間にも是非出席してもらえよう、次回の再会を祈念し散会となりましたことを、この場をお借りしましてご報告申し上げます。



地球と人類の課題をつかんだ人間を育てる 湘南学園のグローバル教育

学園長 仲本正夫

湘南学園中高では、20年も前から総合学習で地球や人類の抱えるグローバルな課題を探求する学習をすすめてきました。例えば、今年度の高2生は「その目を世界へー今、日本にいる私たちのできること」をテーマに、班別に「国連ミレニアム開発目標」が提起している貧困と飢餓、HIV、環境等の地球規模の課題を取り上げ、フィールドワークも行いながらその背景やさまざまな立場を探りつつ、解決方法を考え、プレゼンを行います。

その成果が評価され、2013年12月にはユネスコスクールの認定も得ることができましたが、それは、「持続可能な発展のための教育」(ESD)を行うことにあります。湘南学園としては、これらの取り組みを、海外研修なども含めてグローバル教育として発展させていきたいと考えております。

創立80周年『松ぼっくり募金』のご報告

「松ぼっくり募金」は総額8500万円
80周年記念館建設と教育振興基金設立

2013年、創立80周年を迎えた湘南学園の「松ぼっくり募金」は、保護者や卒業生等1733人から総額84,529,571円のご寄付をいただき、「80周年記念館」の建設と「教育振興基金」の設立を実現することができました。

「80周年記念館」にはカフェテリアと同窓会室・資料室があり、同窓会室は日頃、盛んにご利用いただいております。

カフェテリアは、保護者を中心とするNPO法人「湘南食育ラボ」が運営し、東京のある私立中高から保護者等80人が見学ツアーに訪れ、絶賛を受け、神奈川新聞が「保護者ら運営・手料理学食親心込め」と4段抜きの記事で紹介するなど大きな注目を集め、学園の大きな魅力となり、生徒募集にも一役かっています。

また、「教育振興基金」は、グローバル教育の開拓・推進のために充てられております。

このように創立80周年は、同窓会の皆さまの大きなご尽力のおかげで、湘南学園の次なる10年の発展をはかる大きな節目となりました。

ご協力いただきました皆さまのご芳名は、銘板に刻まれ、80周年記念館内に飾られております。

湘南学園の新しい2つの寄付金制度

湘南学園ではこのほど新しい2つの寄付金制度を新設いたしました。卒業生の皆さまのご協力を心よりお願いいたします。

【1】教育振興寄付金

1. 募金目的 湘南学園の教育を振興するため
 - ・グローバル教育の推進
海外語学研修の拡充や英語教育の充実等
 - ・スーパーグローバルハイスクールの推進
ICT教育設備の拡充（電子黒板、タブレット等）
 - ・カフェテリアの施設・設備の拡充
2. 目標金額 1000万円
3. 寄付対象 在校生保護者、卒業生、教職員、企業
4. 募集期間 2015年4月1日～2016年3月31日
5. 寄付単位 1口5万円（できれば2口以上）
6. 寄付金控除等が受けられます。
7. 振り込み用紙 事務局にお電話いただければ郵送いたします。

【2】遺贈寄付金

1. 募金目的 ご遺産を湘南学園に寄付し、母校の教育の発展に寄与するため
 - ・教育振興基金の拡充
(グローバル教育の開拓・振興等)
 - ・グローバル教育の推進
海外語学研修の拡充や英語教育の充実等
 - ・ICT教育設備の拡充（電子黒板、タブレット等）
 - ・カフェテリア施設・設備の拡充
2. 寄付対象 卒業生、在校生保護者、一般等
3. 期間 随時
4. 提携銀行 三菱UFJ信託銀行「遺言信託制度」がご利用になれます
 - ・遺言に関する事前のご相談
 - ・遺言作成のお手伝い等
 - ・遺言書の保管
 - ・遺産の執行（遺言者の死亡）
 - ・その他お金・不動産に関するアドバイス
5. 寄付金控除が受けられます。
6. ご相談窓口 常時受け付け 湘南学園事務局

詳しくは、学園のホームページをご覧ください。

湘南学園事務局 0466-23-6611

2020年東京オリンピック組織委員会副会長 河野一郎さん(高1965年卒) 藤沢市民会館にて講演



2015年2月21日(土)藤沢市民会館で催された「第30回「スポーツ人の集い」」第2部にて、同窓生の河野一郎さん(小中高在籍、高1965年卒)が「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けて」をテーマに講演をなさ

河野一郎さん いました。日本スポーツ振興センター理事長でもある河野さんは、オリンピック組織委員会副会長として東京招致のために大活躍されました。

講演内容で印象に残ったのは「1932(昭7)年ロサンゼルスオリンピック水泳800mリレー金メダリストで、当時学園小学校の教諭をしておられた峰島久吉先生との出会いがなければオリンピックに携わることはなかったで

あろう」という逸話でした。他にも人間形成や教育の場におけるスポーツの重要性、国際的場面で活躍できる人材の育成に通ずる話題など、大変興味深い1時間でした。同窓会活動においても貴重な人材のおひとりとして、今後ともご協力をお願いいたしました。2020年に向けてさらなるご活躍を祈念いたします。 文責：前川 力(高1961年卒)



卒業記念品を贈呈しています



2015年3月7日(土)高校の卒業式に続き、中学、小学校、幼稚園の卒業式が行われ、それぞれ上級学校等へと巣立っていかれました。今年は高校卒業生167名、中学から他の高校への入学者13名、小学校から他中学への入学者18名、幼稚園から他小学校への入学者29名でした。中途転出者を含めた200余名の卒業生が同窓会の仲間入りをしました。

将来、湘南学園の同窓会を通して卒業生同士のつながりを大切にしていくことは人生を豊かにし、また助けになります。さらに母校の発展を支えていただくとき、同窓会はその重要な足場となります。毎年、卒業を祝すと共にささやかではありますが記念品を進呈しています。

ただいま同窓会室のお当番を募集中です

同窓会では、同窓会室の当番をしていただける方を募集しています。

読書に、趣味の時間に、お仲間同士のおしゃべりやコーヒータイムに、新設された同窓会室で自由な時間をお楽しみください。

現在は人員不足により毎週火曜・木曜・土曜の週3日のみ開館していますが、会員の皆さまのご協力をいただき月曜～土曜の開館を目指しています。

当番は午前10時より午後3時までの在室をお願いしていますが、午前と午後で交代することもできます。

詳しくは、同窓会事務局(総務部)までお問い合わせください。

TEL&FAX 0466-29-3669

Eメール info@shogak-alm.com

同窓会ホームページ「事務局へのお問い合わせ」フォームもご利用ください。会員各位のご協力をお願いいたします。



行事予定

- 6月6日(土)
第5回松ぼっくりフォーラム
中高ホールにて午後2時より開催
- 6月20日(土)
2015年度同窓会総会および懇親会
- 10月3日(土)～4日(日)
中高等学校祭・同窓生作品展(予定)

学園人事

理事長：河野 重男(新)
学園長：仲本 正夫
中学校長：山田 明彦
小学校校長：榎本 勝己
幼稚園園長：古田 優子
法人事務局長：清水 利明
PTA会長：大野 圭介(新)

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会で検索 <http://shogak-doso.org/>